－丹後国・丹波国・山城国の成り立ち－

京都府は、令制国（奈良～明治時代までの地方行政区分）では、山城国の全域、丹波国の大半、丹後国の全域に該当します。山城国には、恭仁宮（740 年遷都）、長岡京（784 年遷都）、平安京（794 年遷都）と都が置かれ、日本の中心でした。

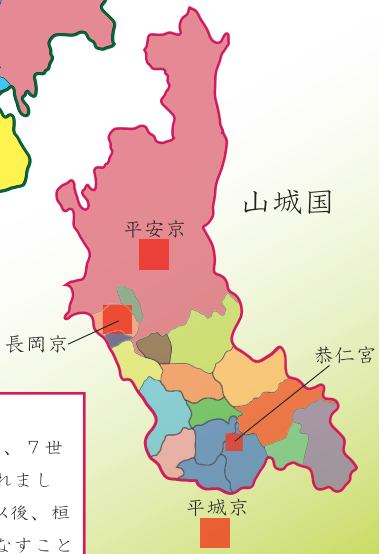
－丹後国－

和銅６年（713）に丹波国の北部、加佐郡、与謝郡、丹波郡、竹野郡、熊野郡の５郡を割いて、丹後国が置かれました。

丹波国が令制国として成立した７世紀頃には、丹波郡・丹波郷（現在の京丹後市峰山町）があり、丹波国の中心であったという説があります。

－丹波国－

丹後国を分国した後の領域は、現在の京都府中部と兵庫県北東部の一部、および大阪府高槻市の一部・大阪府豊能郡豊能町の一部に該当します。



－山城国－

「やましろ」は、古くは山代と書き、７世紀に山背国という表記で国が建てられました。延暦 13 年（794）の平安京遷都以後、桓武天皇が山河が襟帯して自然に城をなすことから「山城国」に改称されました。